

令和5年度 県立真壁高等学校自己評価表

目指す 学校像	文武両道の校風の下、全ての教育活動をとおして、教養と豊かな人間性を培い、地域に広く貢献する人間をはぐくむ。				
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの 方針」 (スクール・ ポリシー)	「育成を目指す資質・能力 に関する方針」 (グラデュエーション・ポリ シー)	教養と豊かな人間性を培い、地域に広く貢献できる人財		B	B ・目指す資質・能力を育む ための授業等における具 体的な目標設定と検証・改 善を行う。 ・明野高校との機能統合を 考慮し、学校における地域 での役割や生徒の進路希 望実現に向けたキャリア教 育の充実を念頭に関係諸 機関との連携を進める。 ・学校の魅力化、特色化を さらに進め、地域や県内に 発信することによって、中 学生を中心に本校への興味・ 関心を高める。
	「教育課程の編成及び実 施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の実態に応じた特色ある教育課程を編成するとともに、デジタルシティズンシップ 教育を通して行動の善悪を自分で判断できる力を身につけさせ、3年間を見通したキ ャリア教育を推進し、地域等と連携した取組の充実を図り、生徒の進路希望実現		C	
	「入学者の受入れに関する 方針」 (アドミッション・ポリシー)	○専門学習に取り組むため、中学までの基礎学力がある生徒 ○実習や地域連携活動が多いため、主体的に活動等に取り組める生徒 ○将来、地域社会に貢献するため、農業・石材・食品の知識・技能を極めようとする意 欲のある生徒 ○地域を理解し、地域の人と協働して学ぶことが出来る生徒 ○進路実現のため、資格取得や検定への取り組みに意欲がある生徒		B	
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
1 すべての教職員の取組により、基本的 生活習慣の確立や規範意識について、 課題のある生徒は減少してきている。教 育活動全般をとおして、これまで以上に 自己肯定感を育み、達成感や自己有用 感をもてるような取り組みを構築したい 。		・あいさつの励行 ・基本的生活習慣と授業規律の確立 ・安心安全な学校づくりの推進	① 登下校時、授業・実習、部活動等を通して、場に合った あいさつの励行を促す。 ② 生徒のよい面を認めて伸ばす指導を基本にする一方、 毅然とした粘り強い指導を徹底し、基本的生活習慣と授 業規律を確立する。 ③ 生徒観察、面談等を通して生徒理解に努めるとともに、 家庭や関係機関等と連携していじめなどのない安全な 学校づくりを推進する。		B
2 TT授業や習熟度別学習を全学科で継 続して実施した。また、ICT端末の利活 用により、工夫・改善をしながら、学習効 果や学習意欲の向上に努めた。また、相 互授業参加やICT活用研修、授業評価		・生徒の実態に合った指導 ・基礎学力の確実な定着 ・自学自習の態度の育成 ・生徒の現状に合わせた授業改善	④ TT 授業、習熟度別学習、分かりやすい授業、ICT 端末 等の活用による指導を拡充するとともに、指導と評価の 一体化により「主体的・対話的で深い学び」となる授業 改善を実施し、生徒の実態に合った指導を展開する。 ⑤ 各教科との連携を密にしつつ、教科横断的な学習内 容や指導方法を展開し、多面的・多角的に生徒一人一		B

を実施するなど、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指すとともに、引き続き「主体的・対話的で深い学び」となるように授業改善を目指す。また、生徒の実態に合った指導を展開するとともに、基礎学力の確実な定着を図り、自学自習の態度を育成する必要がある。		人の学習状況を把握して基礎学力の確実な定着を図る。 ⑥ 学習習慣を身に付けさせるとともに、さらなる学ぶ意欲の向上を目指して、補講や個人指導を実施して自学自習の態度を育成する。 ⑦ 観点別評価「C」の生徒に対し、評価の向上を図るとともに、個に応じた授業展開を含めた、生徒に即した授業改善を行う。 ⑧ 生徒の授業評価アンケートについて、個人では1回目→2回目での上昇を、学校全体としては評価平均3.2以上を目指す。	
3 地域を担う人材として勤労観の醸成を目指し、キャリアパスポートを活用しながら3年間を見通した進路指導の一層の充実を図り、主体的に進路選択する能力や態度を育成する必要がある。そのため基礎学力の向上を促し、また体験的でさまざまな形式の進路行事を行う。また、本校から4年制大学への進学者を輩出する取り組みが必要である。	・進路意識の計画的・系統的な啓発 ・地域を担う人材の育成 ・自分で考え表現する力の養成	⑨ 進路だより、学年集会や進路ガイダンス等を活用して、計画的・系統的に進路意識の啓発を図る。 ⑩ インターンシップや地域貢献活動などの体験的活動の実施、地域人材の積極的活用、資格取得の奨励等を通して勤労観や職業観の醸成を育み、地域を担う人材育成を進める。 ⑪ 社会においては、場を弁えたコミュニケーション能力や態度が重要であることを踏まえ、進路活動を通して、自己を深く認識し、自分で考え表現する力を培う。	B
4 コロナウイルス感染症の影響が残る中、生産物販売や文化祭など、工夫した学校行事の実施ができた。また、真壁のひなまつり等の行事についても参加し、徐々にコロナ蔓延前の学校生活を取り戻しつつある。脱コロナの今後は、生徒会が中心となり、新しい形での実施方法を議論していく。 部活動については生徒数が減少する状況において、働き方改革の視点も踏まえた部活動の活性化が課題である。	・主体的に取り組む態度の育成 ・特別活動への積極的な参加の奨励 ・豊かな心を育む教育活動の充実 ・保護者や地域と連携した教育活動 ・積極的な教育活動の情報発信 ・創意工夫を生かした事業の推進	⑫ 学校行事や生徒会活動に生徒が主体的に参加・運営し、成就感や自己有用感・達成感を高められるよう支援する。 ⑬ 部活動への加入を奨励し帰属意識を高めるとともに、農業関連高校として各種コンテストや発表会等への積極的な参加を奨励する。 ⑭ 校内美化の徹底及びボランティア活動や社会教育活動等の推進により、生徒の自主性と豊かな心を育む。 ⑮ 学校行事、学校説明会、授業公開、農業を活用した取組等を通して、開かれた学校として本校の教育活動を理解していただき、協働して本校の一層の活性化を図り、保護者や地域と連携した教育活動を展開する。 ⑯ 生徒の活動や活躍を本校ホームページにタイムリーに掲載し、積極的な教育活動の情報を発信する。 ⑰ チャレンジプロジェクト事業の地域魅力化型である『「真壁サンシャイン」プロジェクトNext Stage』を精力的に展開し、本校の特色と地域の特性を踏まえた創意工夫を生かした事業を推進する。	B

		・働き方改革の推進	⑱ 校務分掌において、業務の精選と平準化を進めるとともに、チーム体制の強化により全職員が連携し、業務の見直し・再配分、軽減を図る。 ⑲ 部活動においては、練習方法を工夫するなどして、効率的な運営に努める。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る。	読み・書き・表現に重点を置き、豊富な語彙の習得を目指した授業展開を行う。④⑤	A	B	・進路活動を見据えて書く活動を積極的に行い、「書く力」の育成と作文・小論文指導の充実を図る。 ・評価方法や評価内容について教科内で繰り返し確認し、正確な評価ができるよう努めていく。
		基礎学力の定着や向上を目指し、漢字や文法について継続して指導する。⑤	A		
	進路活動と関連した授業を展開する。	進路指導の一助とし、必要かつ個々に応じた作文・小論文の指導を行う。併せて言語による自己表現力を高める。⑤⑥	B		
	授業内容の研鑽に努める。	授業内容、ICT の活用方法、評価方法等について教科内で試行錯誤を重ね、情報の交換・共有を密に図る。④⑤	B		
地歴公民	基礎学力の向上を図る。	小・中学校で学習した内容の復習を織り交ぜながら授業を展開する。④	A	B	・他教科との横断的な授業の展開を行い、より包括的な学びを実現する。 ・18歳成人としての知識と自覚を涵養するため、行政と連携した授業を展開する等、シティズンシップ教育の充実をはかっていく。
		教科書の内容を定着させるため、プリントに繰り返し取り組ませる。④	A		
	社会的事象への関心を高めさせる。	授業の中でICT等を活用して新聞記事やインターネットのニュースをとりあげ、時事問題を積極的に紹介および解説する。⑤ 成人年齢引き下げに伴い、早い段階で契約やクレジットカードの利用について理解を促す。⑩	B		
	進路を見据えた授業を展開する。	各学年の進路活動と関連させ、進路意識の向上や就職・進学試験につながる実践的な授業を展開する。⑤⑧⑨	B		
数学	基礎学力の定着を図る。	義務教育段階の学び直しを授業に取り入れ、ICTを活用した小テスト等で計算問題を出題する。基礎・基本の計算力が定着するための時間を確保し、継続して指導する。④⑤⑥	B	B	・積極的に ICT を活用することができたが、来年度は活用法について更に幅を広げていく。 ・より基礎学力の定着を図るため、小テスト実施後の対応を考察する。
	授業の内容理解の向上を目指す。	ICTを活用し、生徒の授業理解の定着を図る。特に、理解の不十分な生徒には机間指導と補足プリント等で個別指導に努める。第1学年、第2学年においては、習熟度別授業を展開する。④⑤⑦	B		
	分かる授業の展開に努める。	授業内容を精選し、主体的・対話的な学習活動を取り入れ、生徒の深い学びに繋がる授業を展開する。生徒個々に臨機に対応できるよう、課外学習や追加課題等を実施し、更なる理解の向上に努める。④⑤⑥⑦	B		
理科	基礎学力の向上を図る。	知識と日常生活との関連が意識を意欲させた授業を展開しながら、基本事項の確認をしっかりと行い、対話や小テストで理解を図り、定着に向けた反復学習を行う。④⑤⑥	B	B	・積極的に ICT を活用することができたが、来年度は活用法について更に幅を広げていく。 ・知識の習得や理解が進
		個々の生徒との対話に時間をかけ、個性の把握と理解度を探り、それに応じた授業展開をしていく。更に高度な内容も取り入れて、豊かな知識を育み、学力の向上を目指す。④⑤⑦	A		

	興味・関心を高める授業、わかる授業の実践に努める。	情報収集とその活用のために、生徒の活動にICTの利用を積極的に取り入れ、興味・関心と活用技術を高める。④	A		むような指導について、さらに研鑽していく。
		生徒や授業に関する情報の共有と活用を意識し、研修や教科での協議を行い、興味・関心を高める授業、わかる授業の実践に努め、自学自習の意欲を誘う。④⑥	B		
保健体育	保健の学習に興味を持ち、生徒が主体的に学ぼうとする授業を目指す。	喫煙・飲酒の害、性感染症など、生徒に身近な話題を、時事的なニュースと関連づけて興味・関心を高め、心身の健康について自己の立場から課題を明確に出来るようにする。④	A	B	・保健、体育問わず授業の中で生徒同士での対話や、生徒主体で活動する時間を設けた。その結果、自分事として物事を捉えるようになった。 ・なぜその運動をするのかなどの目的を明確にしたうえで、取り組めるように徹底していく。
		ICTの活用等で本時の学習をフィードバックし、知識の定着を図る。そうした知識の積み重ねにより保健に関する関心を高め、実生活に応用しようとする態度を育てる。④	B		
	生涯を通じたスポーツライフの基盤をつくる。	行っている種目に応じた、「体づくり運動」を準備体操後や準備体操の一環として取り入れ、適切な運動量を確保し、基礎体力の向上を図りながら体を動かす楽しさを実感出来るようにする。④	A		
	基本的な生活習慣の定着や運動意欲の向上を図る。	速やかな整列・集合、挨拶、ジャージ着装を徹底し、授業に臨む基本的な態度を身につける。①②	B		
		体力テストや持久走などの記録を生かし、生徒の意欲を高めていくような工夫をする。④⑥	B		
音楽	音楽活動に興味・関心を持ち、わかる授業の展開に努める。	義務教育段階の学習内容を学び直しながら、音楽の基本的知識を習得できるよう題材設定を工夫する。④⑥	A	B	・課題に対して、生徒同士で表現を工夫したり、意見を交換したりしやすくするための手立てを工夫する。
		ICT端末の活用による指導を拡充し、学習内容がよりわかりやすくなるように工夫し、学ぶ意欲の向上を目指す。④	B		
	言語活動の充実を図る。	生徒同士や教員との意見交換をし、表現を工夫する場面を適切に設定することで、学習内容がより深く理解できるようにする。②③④	B		
外国語	基礎学力の向上を図る。	音読の指導と小テストを行い、英語の読む力と自信をつけさせる。⑤	B	B	・授業の課題に対して、生徒が英語で話す機会を増やすための工夫をする。 ・基礎学力の定着を図るための外部試験を利用する。 ・ALTとの連携を図り、生徒の実態に応じた指導を行う。
		語彙指導や基本文の暗記テスト等を実施し、書いたり話したりするための基礎力を育成する。⑤	B		
	英語で話す喜びを実感させる。	英語検定の合格を目指し、個別指導を行う。⑥	B		
		ALTと連携し、英語で話す機会を多く設ける授業の展開をする。④	C		
		ペアワークやグループワークを通し、生徒が自ら学び合う機会を多く設ける。④	B		
		発音やコミュニケーション能力を問う課題を課し、英語力の向上を目指す。必要に応じて個別の指導を行う。④⑤	A		
家庭	基礎学力の向上を図る。	学習内容を通して、ICT 機器を効果的に活用し、生活の身近な問題を解決していく力を身につけさせる。②④⑥	A	B	・生徒の能力に応じた実習内容を検討し、実習で

		家庭生活に関心を持たせるとともに、生活について深く考える力を養えるようにする。また、環境問題や地産地消を理解し生活に役立てられるようにする。⑤⑥		B		ICTを活用する方法の研究をする。 ・授業内容を実生活に結びつけた展開にする。
	実験・実習を充実させる。	体験学習を通して、個々の生徒の能力に応じた指導を展開し、生徒の学習意欲を高め、自分自身の家庭の生活を見直すことができるようにする。②⑥		A		
情 報	情報活用の実践力を養う。	実習を通し、コンピュータやソフトウェアの操作の習熟に努める。④		B	C	・授業内容が実生活に深く関わっていることを生徒が意識できるような授業になるように工夫する。 ・プログラミングの実習内容の充実を図る。
		多様な情報や情報社会の問題点について、適切に処理し他者に伝える力を養うようにする。④		C		
		情報社会の問題点について理解し、自分の考えを持ちながら問題解決に取り組む態度を養うようにする。④⑤⑥		C		
農 業	実験・実習を充実させ魅力ある農業教育を展開する。 ICTを活用したスマート農業を実践した職業教育を展開する。	農業・環境緑地科	授業の目標や到達点を具体的かつ明確にし、ICTを活用し座学と実習を連動した授業を展開する。また、各学年において、段階的な学習活動を確立し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、魅力ある農業教育を展開する。②④⑤⑥⑫⑬	B	B	・実習とITCを連携した授業展開をしていく。 ・地域連携を行い、地域社会に貢献できる人材を育成していく。
			GAP 認証品目の更新と新品目での認証取得に向けて、農場管理体制の見直しと徹底を図り、食品衛生・労働安全・環境保全を柱とした農場運営に努める。②④⑤⑥⑫⑬	A		
			実習に臨む服装及び態度に対する指導を徹底し、安全教育の充実及び安全な実習に努める。④⑤⑥	A		
			社会人講師や外部講師等の地域人材を有効に活用することで、地域で必要とされる高度な専門的知識・技術の習得を目指しスマート農業を実践するとともに、勤労観・職業感の形成を図る。④⑤⑥⑧⑨⑭⑮	A		
	本校の農業教育活動を発信するとともに、地域に寄り添った活動を展開し、地域社会の活性を図る。	食品化学科	生徒の安全に配慮した実験実習を充実させ、基礎・基本の定着を図り、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた生徒の学び合いによる知識・技術の定着を図る。④⑤	A	B	・次年度は、食品成分表示ができるよう、業者に依頼する。 ・販売できる機会を増やす。 ・インターンシップ等を利用し、地域との連携を深めていく。 ・現在進めている、HACCPの考えを取り入れた活動を継続していく。
			地域人材を活用し、インターンシップや製菓コースの授業展開の充実に努める。⑧	A		
			生徒の自主性を引き出し、積極的に活動できるような環境を整え、地域を担う人材育成の素地を培う。⑥⑧⑨⑩⑪⑮	A		
			ボイラー取扱者及び食品衛生責任者の資格取得を推進する。情報処理各検定試験、フォークリフト等の受験者数の増加を目指す。⑥	B		
教 務	充実した学習活動のための授業運営に努め、指導の個別化、学習の個性化、協働	相互授業参観や異校種間交流、ICT活用やユニット研修などとともに、指導と評価の一体化による授業改善に向けた取組により、学習意欲を向上させる授業運営と学習評価の充実に努める。④⑤⑥⑦⑰		B	B	・ICT活用研修の機会を確保する。(昨年度より少なかった)

	的な学びを実践する。	教員間の連携を図り、教科横断的な学習内容や指導方法を展開し、多面的かつ多角的に生徒の学習活動を支援する。④⑤⑥⑦⑰	B		
		生徒の実態や特性を踏まえた学習状況を把握し、個に応じた配慮や学習支援などを工夫、改善し、適切な学習環境を整える。④⑤⑥⑦	B		
	主体的で対話的な深い学びを推進する。	チャレンジプロジェクト事業の地域魅力化型である『「真壁サンシャイン」プロジェクト Next Stage』の充実を図り、教科横断的な教育活動を推進する。④⑤⑭⑯⑰	B	B	
ICT端末を活用した学習活動の充実を図り、探究的な学びや協働的な学びを展開するとともに、学びの機会を確保する。④⑤⑥⑦⑰		B			
	広報活動の充実を図る。	ホームページによる情報提供や学校案内パンフレットの活用によるPR等により、本校の特色ある教育活動の積極的な情報発信に努める。⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯	A	A	
生徒指導	基本的生活習慣の確立及び問題行動の未然防止に努める。	普段の授業や学校生活において、生活習慣の確立及び学校のルールやマナーを守ることの大切さ、また、これらを身につけることが進路活動につながることを理解させながら指導していく。②	B	B	・自転車の乗り方やヘルメットの着用、原付バイクの安全教育を充実させ、交通安全の意識高揚を図る。 ・巡回指導を継続して問題行動の未然防止を図る。
		登校指導や巡回指導を継続して実施することで、生徒と積極的に関わりながら問題行動の防止に努める。①②③	B		
		いじめやスマホの利用、薬物、交通事故等について、面談や集会、HR等を有効に活用し、生徒に考える機会を複数回設けることで意識向上を図るとともに、保護者へも発信して連携を強化していく。②③	A		
	交通安全教育の推進及び教育相談の充実を図る。	交通事故の防止や日常生活における安全確保に向けて安全指導を充実させるとともに、警察署や交通安全協会等関連機関と連携し、講演会や実技講習会を実施する。③	A		
		スクールカウンセラーを有効に活用し、支援を必要とする生徒に適切に対応するとともに、いじめを早期に発見・解決できる安心・安全な学校づくりの推進を図る。③	A		
進路指導	進学指導、就職指導を充実し生徒個々の進路実現を目指す。	各学年と連絡を密にし、進路ガイダンス・インターンシップ等の体験を通して、3年間を見通した体系的な進路指導を行い、適切な進路選択ができるように促す。⑦⑧⑨	B	B	・夏季課外およびインターンシップの実施形態・内容についての改善を図る。 ・基礎力診断テストのフィードバック方法について、各教科・学年と連携して改善を図る。
		基礎力診断テスト等を実施してそのフィードバックを行い、基礎学力の向上を促す。またそれにより、個々の生徒が自分自身を認識し、進路選択に活かせるような働きかけを行う。⑤⑦	C		
		「真高 NEWS」を年3回発行し、外部からの情報も生徒に積極的に提供する。⑦	C		
		面接指導、小論文指導、課外授業等を企画し、多様な入試形態に対応できる実力を養い、大学進学希望生徒の合格を目指す。⑤⑨	B		
		あいさつを励行し、服装・頭髪等を含め社会に出るための基本的態度を養い、また個別面談を通して生徒の進路実現を促す。①②	B		

		ハローワークとの連携を図るとともに、企業訪問を積極的に行い、新規企業の開拓に努める。⑧	A		
特別活動	キャリアパスポートを活用し、学校行事や各種生徒会活動、部活動、HR活動を通し、集団の一員としての自覚を深め、生徒一人一人の個性の伸長と調和のとれた豊かな人間性の育成を目指す。	生徒会活動や委員会活動、部活動など活躍の場を広げ、それぞれの活動の中で、自分の学校生活や社会生活について見つけ、成長していく意識を培う。そのための手立てとして、キャリアパスポートの活用を推進する。⑪⑫⑬	B	B	・生徒会や部活動、委員会等の様子を校内で可視化し、学校の活性化につなげる。 ・シティズンシップ教育の充実を図る。
		学校行事（晨光祭・クラスマッチ等）を通して集団の中での役割遂行の大切さを理解し、成就感を享受させる。また、部活動の加入率を向上させて、学校に対する帰属意識を高め、幅広い人間関係の構築を目指す。⑪⑫	A		
		HR活動や部活動を通し、生徒相互の連帯を深め、責任感、使命感を持ち、何事にも前向きな姿勢や素養を培い、自己有用感を高める。⑪⑫	B		
保健厚生	心身の健康増進に努め、関する知識と能力を育てる。	講演会などにより性教育、健康教育を推進する。③	A	A	・配慮を要する生徒が増加傾向のため、情報共有や支援技能の養成を適切に実施する。 ・感染症予防について、継続的に指導を行う。 ・校内清掃をしっかりと実施する。
		心身の健康状態の把握に努め、適切な指導・援助を行う。②③	A		
		個別相談等による健康相談活動（スクールカウンセラー等の活用）を推進する。③	A		
	健康で安全な学校環境の整備に努め、公德心を育てる。	施設・設備の安全点検・管理を徹底する。⑩	B		
		防災組織の編制・防災避難訓練の実施により、非常時の安全教育を行う。⑩	A		
		清掃用具の管理と清掃監督指導の徹底に努める。⑬	B		
図 書	生徒が本に親しみをもち、読書する習慣が身に付けられるよう、利用しやすい図書室の環境を整える。	情操を豊かにする幅広い分野の書蔵を揃え、閲覧しやすいようにする。⑧⑨⑬	C	C	・利用者が増えるように環境整備を進める。
		生徒・職員のニーズを考慮した書籍を購入する。⑤⑧⑨	B		
		「図書館だより」を定期的に発行するとともに、「おすすめ本」の掲示等により、利用率の向上を図る。⑤⑧⑨⑬⑮	C		
		授業やHR等での図書室の利用を促進するために、幅広い分野の書蔵を増やすとともに、ICT機器等を設置し、充実した環境を整える。④⑤⑥⑧⑨⑬	C		
渉 外	PTA活動への参加率を高める。	各種行事（PTA総会・支部総会・あいさつ運動・夏季巡回等）への参加率を高める。⑭	A	A	コロナ感染症のためストップしていた各種行事が、本年度より、開催されるようになった。コロナ前を知る先生方が少なかったので、手探りではあったが、PTA 役員を始め、先生方の協力を頂き成功裏に終えることができた。
		各種委員会を活性化する。 進路委員会＝企業・学校の見学及び研修を充実する。⑧⑭ 広報委員会＝PTAだよりを発行する。⑭⑮ 生徒指導委員会＝あいさつ運動、地域巡回指導を実施する。①②⑭ 学年PTA＝各学年と連携し、学年の会員相互の理解や親睦を深める。⑪⑭⑮	B		
事 務	省エネルギー・省資源に努める。	教職員の共通理解を求めながら電気使用量、上下水道使用量、燃料使用量、用紙類使用量等を削減し、環境対応品の購入増に努める。	B	B	・予算を有効活用し、学習環境の充実を図る。

	学習環境の整備に努める。	校内の破損箇所への迅速な対応と共に環境美化に努める。また、教育活動が円滑に進められるよう効果的な予算執行を図る。	B		
第1学年	基本的生活習慣の確立を図る。	挨拶を励行し、他者に対する思いやりを持った言葉遣いや態度を身につけさせる。 ①②③	A	B	・生活態度に関しては、全体的に服装の乱れも少なく、生徒たちの落ち着いた生活態度を継続する。 ・授業・学習態度に関しては、土台が完成してきたところである。来年度は、進路実現に向けて先を見た進路活動を進め、生徒たちの良さを伸ばしていけるように、学年団全員で協力し生徒一人一人に対して丁寧な指導を継続する。
		遅刻・欠席、服装等の乱れを正し、自己指導能力を育成する。②	B		
	問題行動の未然防止に努める。	指導カードによる生活習慣指導や巡回を行い、些細な問題行動を見逃さず、家庭と連携し生徒理解を深め問題行動の未然防止に務める。②③	B		
	基礎学力を身につける。	日々の授業に集中させると共に、教科担当と連携し、個に応じた指導に努め、家庭学習の習慣を定着できるように指導する。④⑤⑥⑦	B		
	地域を知り地域に貢献する人材の育成を目指す。	ぐるっと筑波山、先進地見学、地域活動を通して、卒業後の進路につながるきっかけづくりができるように取り組ませる。また、キャリアパスポートを活用し、今やるべきことを継続して取り組めるように指導する。⑧⑨⑩⑪⑫	B		
		進路ガイダンスを実施し、職業意識と勤労観を高め、具体的な進路目標を設定させる。⑨	A		
第2学年	基本的生活習慣を確立させる。	挨拶や言葉遣いなどの礼儀指導を徹底し、他者に対する思いやりを持った関わり方を身に付ける。①②⑦⑩⑪	B	B	・人との関わり方、円滑なコミュニケーションの方法などを日頃から意識させ身に付けさせられるように指導していく。 ・生徒指導や進路指導等で学年内での連携を密にしていく。 ・授業へ臨む態度や学校での過ごし方に課題が残ってしまった。 ・集団生活を送る上での意識の改善が必要である。
		遅刻や欠席、服装・頭髮等の乱れを正し、自己指導能力を育成する。 ①②⑥⑦⑩⑪⑫	C		
	授業への取り組みを向上させる。	授業の準備や心構えなど、学ぶ態度と環境を整え、日々の授業に集中させる。 ②④⑤⑥	C		
		教科担当者と学年が連携し、個に応じた指導に努め、学業上の不適応を低減する。 ②④⑤⑥	B		
		授業の態度及び理解度などの情報を共有し、学習状況の改善に努める。④⑤⑥	B		
	進路意識を向上させる。	授業やホームルーム、特別活動、資格取得などあらゆる場面において進路に繋がる指導を徹底する。⑦⑧⑨⑩⑪⑫	B		
		キャリアパスポートを活用し、進路ガイダンスや校外学習などを実施し、職業意識と勤労観を高めるとともに、具体的な進路目標を設定させる。⑥⑦	B		
		診断テスト等により自己点検を行いつつ、進路実現に向けて努力する姿勢を身に付けさせる。	B		
	問題行動の未然防止に努める。	道徳プラスや学校行事、特別活動などを通して、集団生活における規則や行動を理解させ、さらに仲間を支え思いやる心を育成させる。②⑨⑩⑪⑫	B		
		コミュニケーションの充実を図るとともに、生徒の観察や声かけ、個人面談等の実施、家庭との連携と情報共有などを徹底し、些細な変化も見逃さない。②③⑤⑥	A		

		問題行動への素早い対応を心掛け、生徒理解と教員間及び家庭や関係情報の共有化に努める。②③⑨	B		
第3学年	基本的生活習慣の確立を図る。	挨拶や言葉使いなど場面に応じた礼儀指導を徹底し、他者に対する思いやりを持った適切な関わり方を身につける。①②⑨⑩⑪	B	B	・繰り返し声掛けを行うことで、身だしなみ等への規範意識は高めることができた。 ・行事の際には、それぞれの係や委員の生徒を中心に活動させ、自身の役割を自覚し、責任をもって取り組むよう促すことで、それぞれの自己有用感を高めることができた。 ・チャイムtoチャイムが徹底できなかった。 ・こまめな面談を行うことで、一人一人の事情に応じた進路活動を行うことができた。
		遅刻や欠席、服装・頭髪等の乱れを正し、自己管理能力を醸成させる。 ①②⑥⑨⑩⑪⑫	B		
	進路決定への意識向上を図る。	自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する資質・能力を育成させる。授業やホームルーム、特別活動、資格取得などあらゆる場面が進路につながることを理解させ、自ら考える態度を育成する。⑦⑧⑨⑩⑪⑫	C		
		進路ガイダンスなどを実施し、職業意識と勤労観を高めるとともに、具体的な進路目標を設定させ、その実現に向けた具体的方策を明確にする。⑥⑦	A		
	授業への取り組みを向上させる。	学ぶことと社会との接続を意識させ、授業の準備や心構えなど、日々の授業に集中させる。	C		
		教科担当と学年が連携し、授業の態度及び理解度などの情報を共有し、学習状況の改善に努め、学業上の不適応を低減する。②④⑤⑥	B		
	問題行動の未然防止に努める。	学年行事や学校行事、特別活動などを通して、自己存在感や自己有用感を高め、互いを認め合う機会を設け、他者を思いやる心を育成させる。②⑨⑩⑪⑫	A		
		校内外巡視の励行し、個人面談や家庭との連携・情報共有などを徹底する。 ②③⑤⑥	B		
		特別支援コーディネーターや養護教諭との連携を図り、問題行動への素早い対応を心がけ、生徒理解と情報の共有化に努める。③⑤⑥⑨	B		
いじめ防止 対策会議	未然防止への取り組みを推進する。	授業、ホームルーム活動、特別活動など全ての教育活動全体を通して、生徒の自己有用感や共感的理解の能力を培い、自己指導能力を高める。①⑥⑩⑪	B	B	・いじめの訴えに対して速やかに対応することができた。 ・いじめに関する研修会を定期的に行い、いじめの見逃しゼロを目指す。
		教育相談と個別面談、さらに必要に応じてスクールカウンセラー等を活用し、教育相談体制を整え、生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。③⑩	A		
	早期発見・早期解消への取り組みを徹底する。	いじめに関するアンケート調査を定期的に行う。また、保護者との連携を密にし、些細な兆候であってもいじめではないかとの疑いをもって対応し、早期発見に努める。③	A		
		いじめを確認した場合、まず実態を把握し、被害生徒を守り通すことを第一とし、全職員が協力して被害生徒の心のケアに努める。また、加害生徒への対応についても毅然とした態度で指導する一方、生徒の人格の成長に主眼を置いた指導の徹底を図り、いじめを繰り返さないよう支援する。②③⑪	A		
	関係機関との連携を徹底する。	学校だけの対応では問題を解消することが困難であると判断した場合、速やかに警察、児童相談所、法務局等の関係機関に相談し、連携の徹底を図る。③⑭	A		

	教職員研修の充実を図る。	実践的な研修を積極的に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解消等に向けた技能の習得、向上を図る。③	B		
		絶えず最新のインターネット環境等に関する研修を行い、教職員全体が情報モラルへの理解を深める。③	B		

※ 評価規準:A:大変よくできた B:よくできた C:普通 D:やや不十分 E:不十分